



ブラックスワン食糧保障メールマガジン 2023年05月23日配信号

「急速に進むドル離れ」

皆さんお元気ですか？

この間まではまだ寒いと思っていたら、急に暑くなってきましたね。

本当にどーでもよいことなのですが、最近びっくりしたことがあります。
皆さんは歴代のハリウッド女優で誰が一番IQ高かったかご存知ですか...？

なんとマリリン・モンローらしいのです。

IQは驚きの168！アインシュタインの160を超える天才ぶりです。

次にシャロンストーンが154、その下の140近辺のグループにマドンナと意外とセクシー系が、健闘しているのが分かります。

昔はマリリンモンローの可愛さと妖艶さは‘天然’みたいに言われていましたが、しっかりと計算されていたのでしょね、やはり女性は怖いですね。

因みに男性も入れると、トップはマシ・オカの名で活躍する岡 政偉さんの189。

これは超天才を更に超えるぶっちぎりのレベルです。

日本人がトップで良かったですねー、私は全くこの人知りませんが...

因みにアメリカ人のトップはジェームズ・ウズの184。

この人は私もけっこう好きな俳優さんですが、こちらもどちらかという知性派でなく暴力系の役柄ですよ。

彼は全米の大学入試共通テストで満点を取り、フルスカラシップ（全額奨学金）でマサチューセッツ工科大学に入学したにもかかわらず、中退して俳優を目指したという変わり者です。

ほんとにどうでもいい話ですが...

この話を妻にすると「えー！美人で巨乳な上に、頭もいいってこと？私はどうしたらいいの！！」と言ってました。

更にどうでもいい話です...すみません。

さて、最近私が食糧危機同様に懸念していて、非常に食糧危機にも関連する「ドル離れ」についてです。

これから数年間どんどん状況は悪化していくと見られますが、これも発端はウクライナ侵攻です。

バイデン政権になってから、致命的な戦略ミスが非常に目立つようになりましたが、最大のミスはプーチンを初めとするロシア高官やロシアの対外資産を、アメリカを始めとする欧米諸国が凍結し、送金もできなくしてしまったことです。

これにより中国をはじめとするBRICS諸国や独裁国などが、「アメリカの機嫌を損ねると資産を没収される」と気付いてしまいました。

これら諸外国は、これから徐々に米国債を始めとするドル資産を減らしていくでしょうし、サウジアラビアもあちらの方に近付いて行ってしまっています。

この‘サウジアラビアのアメリカ離れ’というのが現実化すると事態はさらに深刻化してしまいます。おまけにロシアを戦費調達のためにドル以外で石油や天然ガスを売らざるを得ない状況に追い込んでしまいました。

どういふことかと言いますと、話は1971年のニクソンショックのころに遡ります。この時はニクソンがドルと金の交換を停止し、文字通りドル紙幣は紙切れになってしまいました。

これではまずいという事になり、キッシンジャーが中東に飛び、サウジを中心とする中東産油国に対し、「中東湾岸国の安全をアメリカが保障するので、ドル以外で石油を売らないように」と協定を結びました。

これにより、世界中の石油を買いだたい人はドルを用意しなければなくなり、金本位制に変わるドル=石油本位制とでもいふべき体制が誕生しました。

キッシンジャーもこれまた天才ですね。

昔イラクが大量破壊兵器を隠していると難癖をつけてアメリカが攻撃し、フセイン体制を打倒しましたが、本当の理由はフセインがユーロ建てで石油を売ろうとしたからです。金貨ディナールをアフリカの基軸通貨にし、石油取引の決済に使おうとしたリビアのカダフィー体制を、だまし討ちして崩壊させた目的も、同じような理由ではなかったのかと言われています。

このような卑怯なことまでして守ってきたドル=石油本位制が崩壊しつつあります。

先に述べた様に、ロシアがルーブル建てで石油や天然ガスを売り出したり、こともあろうにフランスが裏切って、中国から液化天然ガスを元建てで買ったりしています。またこのフランスが曲者で、ニクソンショックの時もフランスが「アメリカに預けている金を自国に持って帰る」といったのが発端ともいわれ、非常に嫌な感じですよ。

因みに今騒がれているアメリカの債務上限問題は春のパン祭りみたいな恒例行事なので、あまり問題はありませぬ。債務上限はもう100回以上引き上げられています。

ユーロ圏は厳格な規制の下、運営されているので、ドルが崩壊しても何とかやっていけるでしょう。

むしろドルに奪われた覇権をヨーロッパに取り戻そうとしているのかもしれない。

しかし、ドル体制に‘下駄の雪’の様に盲従してきた円はどうなるのでしょうか？

ドルが崩壊してしまえば結局のところ、お金があっても食糧を輸入できなくなる可能性が大ですね...

丁度ここまで書いた翌日に、ジム・リカーズさんから似たような内容のメルマガが来ましたので付けておきます。

著作権の問題がありますのでここからは拡散させないでくださいね。

今から約10年前、私は米国国防省の会議室で、軍隊、CIA、財務省やその他の省庁の国家安全保障を担う高官たちに話をした。

金融戦争で米ドルを乱用すると、最終的に他国が国際取引で米ドルを使わなくなるだろう、と。

皆が、米国の次の怒りの矛先になることを恐れるからだ。

メモを取る人もいれば、忠告を無視する人もいた。そんな中、財務長官はテーブルを叩き、こう言った。

「米ドルは、これまでも、今も、そしてこれからも**国際準備通貨**であり続けるのです！」
きっと1913年の英国官庁でも、イギリス人がポンドについて同じことを言っていただろう。

第一次世界大戦が始まったわずか1年後の1915年には、**ポンドは米ドルに押しつけられる**とも知らずに。

最近、米陸軍戦略大学で**金融戦争**に関する講義をした。
米国の経済制裁は、ロシアに重大な衝撃を与えないこと。
制裁を受けてもロシアはウクライナに対する態度を改めないこと。
そして米国は制裁によって、自らがより苦しむ結果になるということ。
なぜなら、**当事国と中立国は米ドルを使わない**、別の決済システムを創るからだ。
既にその動きは始まっている。

今回は以上です。
ご一読頂き有難うございました。

ブラックスワン食糧保障
草間 弘人

正しく表示されない場合は[こちら](#)

今後も引き続きメールの受信を希望される方は [こちらをクリック](#) してください。今後メールの受信をご希望されない方は、こちらから[配信停止手続きが行えます。](#)

大阪市港区 弁天 1 - 2 - 1

[配信停止](#)

